

【全国納税貯蓄組合連合会優秀賞】

支えられている

鹿児島市立星峯中学校

三年 栗元 仁子

私の母は病院で働く社会福祉士だ。医師や看護師は患者の病気を仕事の対象としているが、母が対象としているのは患者の生活や人生であるらしい。病気やけがをきっかけにこれまで通りの日常を継続できなくなったり、老いにより他者の支援が必要になったりした人達の話を聞き、これからの生活を再構築するお手伝いをするのが母の仕事だ。病気で治療を続けることで出てくる問題には、治療費が増える、仕事ができず収入が減るなどの経済的負担や、日常生活に介助や補助具が必要となる身体機能の変化が挙げられる。どのような状態になってもその人らしい自立した生活を送るための手段として、社会保障制度はなくてはならないものだそう。

社会保障制度とは国民の「安心」や生活の「安定」を支えるセーフティネットで、私たちの当たり前の生活と原因は問わずその生活が送れなくなった時の最後のとりでとして国が保障してくれている。私達の生活を生涯にわたって支えているものである。そして社会保障は国の支出の一番多くの割合を占め、多くの税金が投入されているのだ。社会保障と税の一体化改革において消費税率が引き上げられたが、これは社会保障の充実や安定化を実現するためだという。

なぜここまで社会保障に税金を投入するのだろうか？母にソーシャルインクルージョンという言葉を教えてもらった。すべての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう社会の構成員として包み支え合うという意味らしい。社会保障制度がこの考えの実現する手段だとすると、大切な税金の正しい使い方だと思うと共にその担い手になることをうれしく思った。一人では実現することが難しくても、税金を納めることでどこかで困っている人の力になれる。社会全体を包み込む大きな助けあの輪の一員となることができるのだ。

私が歩く道、蛇口をひねれば出てくる水、自分の将来のために学ぶ学校。これらは全て税金によって成り立っている。私たちが当たり前のように生活できているのはたくさんの方の労働と思いの詰まった大事な税金が使われているからだ。

税についてこれまで消費税くらいしか知らなかったが、私はもう税金を納めることは助け合いに繋がること、自分も税金を支えられていることを知った。社会は、税金による世間の支えあいでも成り立っている。私が支える側になったときは、ソーシャルインクルージョンの考えの実現のため税金を払うことに誇りをもって生活していきたい。これからも税金が正しく使われ私たちの生活を支え続けてくれることを願う。